入れ替えっこ

澄田　康美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
入れ替えっこ

【Ｎコード】
Ｎ０１５２Ｏ

【作者名】
澄田　康美

【あらすじ】
あらすじ
ある日、魔理沙とアリスの精神が入れ替わってしまった！！二人はこれから一体どうなるのか！？

（前書き）

前書き
あらかじめ言っておきます。この話にはナレーションが存在しません。
ですので、全てはご想像からどうにかしてください。
一応、頭文字のキャラが誰なのか説明しておきます。

魔？・・・魔理沙の精神であるアリス

上・・・上海人形

ア？・・・アリスの精神である魔理沙

パ・・・パチュリー

チ・・・チルノ

霊・・・霊夢

紫・・・ゆかりん

ではどうぞ

幻想郷の晴れ晴れとした朝。
アリスの家

魔？「・・・あーっ、よく寝たぜ・・・昨日は結構遅くまでアリスの所にいたからなぁ・・・さて、まずは顔を洗うとすっか・・・ってあれ？おかしいな、これはあたしのベッドじゃない・・・てかここはあたしの家じゃない。どう見てもアリスの家だぜ。なんであたしがアリスの家で寝てるんだ？おーい、アリス。どこにいるんだ？おーい・・・おかしい、まったく返事がないぜ。ちょっと家を見て回ってみるか。」

上「・・・」

魔？「ん？どうした上海？あたしの顔に何かついてるか？」

上「・・・」

魔？「え？なんだか口調がおかしい？あたしはいつも通りだぜ？」

上「・・・」

魔？「え？まるで魔理沙みたい？何言ってんだ、あたしは魔理沙だぜ。」

上「・・・」

魔？「え？鏡を見て？わかったよ、そんなにあたしが魔理沙に見え

ないのか・・・え？どうなってんだこの鏡？なんでアリスが移ってるんだ？」

上「・・・」

魔？「え？あなたはアリスでしょ？ちょっと待て・・・この服、この髪飾り・・・まさかあたし、アリスになっちまったのか！？嘘だろ！これリアルか・・・ていたた、ほっぺ引っ張ってもいたいだけだぜ。どうやら夢とかじゃないみたいだぜ・・・」

上「・・・」

魔？「え？あなたはアリスじゃないのかって？わかってもらえるかわかんないけど、今のアリスはあたし、魔理沙になってるんだぜ。」

上「・・・」

魔？「じゃあアリスはどこにいるのかって？多分だけど・・・あたしになってるんじゃないかな・・・」

魔理沙の家

ア？「な・・・なんで私が魔理沙の家にいて・・・魔理沙になってるのよ！？意味がわからないわ！！ほっぺ引っ張っても痛いだけだし、なんでこんな事になったのよ・・・昨日は魔理沙と遅くまで話してたけど、それらしい事はなかったし・・・どっちにしても、ま

ずは私の家に帰らなきゃ・・・って言うか・・・魔理沙の家、汚すぎるでしょ！！なんでこんな所に住んでいられるのよ魔理沙は！？家に行く前に掃除した方がよさそうね・・・」

少女掃除中・・・・

ア？「ふぅ～、これで大体は片付いたわね。にしても信じられないわね、この汚さは。あ、よく見たらこれ、多分だけどパチュリーの本じゃない。魔理沙の事だから借りたままほったらかしにしたのね。こんなにほこりまみれになって・・・この際だから、パチュリーの本をまとめて返してあげようっと。魔理沙の事だから絶対返さないだろうしね。とりあえず束ねてっと・・・こんなもんよね。それじゃ、紅魔館に行こうかしら。」

少女移動中・・・・

紅魔館門前

ア？「ほ、箒って案外飛びにくいわね・・・初めてだから余計でしょうけど・・・とりあえず門まで来たわね。門番は寝てるからほっ

といてっと・・・」

紅魔館図書館

パ「やっぱりないわね・・・魔理沙の奴、かなり前に借りた本も返してないじゃない・・・こうなったら乗り込むのも考えた方がいいわね・・・」

ア？「パチュリー？いるかしら？パチュリー。」

パ「魔理沙！！また本を持っていく気！？悪いけど前借りた本を返すまでは貸さないわよ！！」

ア？「あ、いたわねパチュリー。はいこれ。」

パ「これって・・・今まで借りてた本？」

ア？「ええ。いつまでも返さないのは駄目でしょう？だからまとめてだけど返しにきたのよ。」

パ「・・・それはいいんだけど、あなたって魔理沙なの？なんだか喋り方とかがいつもと違うわよ？」

ア？「え？（あ、そうか。私の口調は魔理沙と全然違うから、おかしいと思ったのね。とりあえず事情を説明した方がいいかしら・・・でもあんまり大事にしたら後がまずいかもしれないわね・・・仕方

ないわ、ここは適当に演技しておきましょう。）そ、そんな事ないぜ・・・」

パ「・・・怪しいわね・・・もしかして誰かが化けてるんじゃないの？」

ア？「（ま、まずいわね・・・このままじゃ多分ばれるわ・・・どうにかしないと・・・）じゃ、じゃあ、どうしたら信じてくれるんだぜ？」

パ「そうね・・・魔理沙って言ったら、やっぱりマスタースパークよね。今あそこに的を用意したから、あれに向けて撃ってみてよ。」

ア？「えぇ！？本当に！？」

パ「何よ？本物なら何の問題もないでしょ？」

ア？「（う、嘘でしょ・・・魔理沙なら問題はないでしょうけど・・・私はアリスよ・・・マスタースパークなんて撃てる訳・・・いや・・・もしかしたら・・・）」

パ「あら、構えたわね。これで偽者かどうかわかるわ。さあ、撃ってみてよ。」

ア？「（駄目元でも・・・行くしかない！！）恋符！！マスタースパァァァク！！」

パ「・・・見事ね。偽者だったらこんなマスタースパーク、撃てる訳ないわ。どうやら私の思い違いのようね。」

ア？「（で、出来たぁ・・・イメージでやったらうまくいったわね・・・にしてもマスタースパーク撃つ時ってこんな感じなのね、よくわかったわ。）」

パ「それで、何か借りてくの？」

ア？「え？（あ、そうね。今の私は魔理沙なんだから、このまま帰ったら変よね・・・でも私は借りたい本なんてないし・・・でもせっかくだから、ちょっと立ち読みぐらいしておこうかしら。）あ、ああ、それじゃ適当に読んでてもいいかな？」

パ「それなら、別にいいわよ。」

ア？「そうか、恩に着るぜパチュリー。」

パ「・・・珍しいわね。あなたからそんな台詞が出るなんて。」

ア？「そ、そんな事ないぜ！！（ああもう、魔理沙のキャラなんてそこまで知らないわよ！）」

パ「まあいいわ。うるさくしないならしばらくいていいわよ。」

ア？「わかったぜ。（図書館でうるさくする方がおかしいでしょうけどね普通・・・それはそうと色々と面白そうなのがあるわね。さすがは幻想郷一の蔵書量って言うだけあるわ。あ、これなんて今の私の研究材料によさそうね。それにあれも。読むのに迷っちゃうわ。私、ここに来た事あんまりないから新鮮ね。）」

パ「・・・そう言えば、魔理沙はここによく来るけど、あの人形遣いの子は来ないわね。」

ア?「それって・・・アリスの事?」

パ「ええ。まあ、来てほしいって訳じゃないんだけど、同じ魔法使いとして・・・少しは話してみたいわね。」

ア?「そう・・・なの?」

パ「ってこんな事、あなたに言っても仕方ないわよね。」

ア?「そんな事・・・ないわよ。」

パ「え?何でよ?」

ア?「私も、同じ魔法使いなんだから。パチュリーがいいのなら、色んな話してみたいわよ。」

パ「魔理沙・・・何言ってるのよ?」

ア?「(あ!しまった!今私は魔理沙だったんだ!すっかり忘れてた!まずい、すぐに誤魔化さないと・・・)あ、ああ!アリスならこんな事言うんじゃないかな〜って・・・」

パ「・・・もしかして、私の事を気遣ってくれたの?」

ア?「そ、そうだぜ!」

パ「・・・ふふふ、魔理沙らしいわね、そんな所って。」

ア?「(そ、そうなの?よくわからないけど・・・)」

パ「とりあえずありがとうね魔理沙。せっかくだから、アリスに会ったら、機会があったら来てくれるよう言っておいてくれない？」

ア？「うん。わかったぜ。」

魔理沙の家

魔？「あっり～？何で家に誰もいないんだ？どっかに行っちゃったのか？家は随分綺麗になってるし、それにパチュリーから借りてた本も根こそぎない。アリスの奴・・・一体何考えてるんだ？」

上「・・・」

魔？「ちょっと待ってくれよ。お前のご主人はどこに行ってるかいまいちわからないから、これから探しに行くぜ。」

上「・・・」

魔？「大丈夫だって。アリスならよほどの事がない限り危ない目には合ってないって。そんじゃ、いっちょ探しに行くとするか。」

チ「あれ？魔理沙の家からアリスが出てきた。何で？」

魔？「チルノか。悪いけど今お前の相手してる暇はないぜ？」

チ「へん！！別にアリスに用なんてないわよ！！」

魔？「（あ、そうか。今あたしはアリスだったんだな。いつもの調子でつい言っちまったぜ。）」

チ「でも魔理沙はいないんだよね。せっかくだから・・・あんたに挑んであげるよ！！」

魔？「えぇ？それ、本気で言ってるのか？」

チ「あたいは冗談で物言わないよ！！」

魔？「そうか・・・本当は相手してる暇なんてないんだけど、特別に相手してやるよ！！」

チ「今日は随分強気ねアリス！！それでこそやりがいがあるよ！！」

魔？「悪いけどさっさと終わらせるぜ！！行くぜ！！マスタースパァァァク！！」

チ「・・・何やってんのよ、あんた？」

魔？「（あ・・・しまった！！今のあたしはアリスだから、マスタースパークなんて撃てる訳ない！！まいったぜ・・・）」

チ「何がしたかったか知らないけど、何もしないならあたいから行くよ！！」

魔？「（や、やばいやばい！！ここは避けるしかないぜ・・・でもこのままじゃ勝負にもならないぜ・・・どうしたらいいんだ・・・）

」

上「・・・」

魔？「（上海・・・そうだ、あたしは今魔理沙じゃないんだ、アリスなんだ。だったらあたしは・・・上海と一緒に戦うんだぜ！！）頼むぜ、上海！！」

チ「おっと！！避けてばっかだと思ったら、やっと戦う気になったみたいね！！」

魔？「ああ・・・ここからがあたしの本気だぜ！！行くぜ上海！！ってあれ？どこに行ってるんだ上海ぃ！？」

チ「何してるのよアリス！！普段と比べたら随分雑ね！！」

魔？「（やばいやばい！！これってどうやって動かすんだ？動かし方とか全然わからないぜ。アリスってこんな難しい事普段からしてたのか・・・まずいぜこのままじゃ・・・）」

上「・・・」

魔？「・・・そうか！！それならあたしでも出来るぜ！！」

チ「そんなんじゃあたいには勝てないよ！！残念だけど今回はあたいの勝ち・・・」

魔？「ばーか、それはこっちの台詞だぜ。」

チ「へん！！こんな有様でよくそんな・・・あ・・・これはまさか

！？」

魔？「魔符！！アーティクルサクリファイス！！」

チ「う、うっそぉぉぉぉぉぉん・・・・・」

魔？「おおー、派手に飛んでいったなぁ。星になるってあんな感じなんだな。」

上「・・・・」

魔？「ああ、さっきのは中々のコンビプレーだったぜ。」

上「・・・・」

魔？「ははは、そうかそうか、まああたしはアリス程うまくないからな。」

上「・・・・」

魔？「わかってるぜ。だからこそアリスを探すんだぜ。」

アリスの家

ア？「いないわね・・・てっきりここにいると思ったのに・・・上海達もいない所を見ると、どこかに行ったと考えるのが妥当よね。

じゃあどこに行ったのか考えなきゃ・・・魔理沙の事だから、多分自分の家に行ってるわよね。でもそれが食い違いになったとしたら・・・あそこに行ってるかもしれないわね。」

博霊神社

霊「・・・今日も収穫なし・・・このままじゃ私も神社も限界きそうよ・・・」

ア？「霊夢！！」

霊「何？今度は疫病神が来たわね。どうでもいい事ならさっさと帰って。」

ア？「（相変わらず荒んでるわね・・・・）どうでもいい事じゃないんだぜ。アリス見なかったかぜ？」

霊「見なかったわよ。てか、かぜって何よ？ぜを付けるにしても無理あるんじゃないの？」

ア？「そ、それもそうだぜ。（こ、この口調に慣れてないから仕方ないでしょう！？）」

霊「まあそんな事どうでもいいわ。それより、あなたがアリスを探すなんて珍しいわね。」

ア？「そ、そうかな？（言われてみればそうかもね・・・）」

霊「まあパートナーを大切にするのは大事な事よね。しっかりしなさいよ。」

ア？「あ、ああ・・・（何か複雑・・・）」

霊「・・・それにしても、あなたって変わったわよね。初めて会った時とは大違い。」

ア？「（な、何の事？）」

霊「最初会った時は、見境なく誰かを傷つけるフランみたいな子だったけど、今は誰かを思いやったり助けたり出来る子になった。多分だけど、色んな奴と出会って変わったのよね。特にアリスとかにね。同じ魔法使いだから、共感出来る所が多いんでしょうけど、あなたって気がついたらアリスの話ばかりしてるものね。」

ア？「（そうなんだ・・・魔理沙ってそんなに私の事を思っててくれてたんだ・・・普段はただ面倒な奴にしか見えないのに・・・）」

霊「私にはあんまりそういうのってないから、ちょっとうらやましいかもね。」

ア？「（・・・えーっと、こんな時に魔理沙なら多分こう言うわよね。）何言ってるんだ。霊夢にはあたしがいるぜ。」

霊「・・・」

ア？「（あれ？もしかして外した？魔理沙ならこんな台詞絶対言うと思ったのに・・・）」

霊「・・・そうね、でも今はあなただけじゃないわ。異変とか解決する度に、私には面倒だけど色んな奴が出来る。望んでる訳でもないけど、自然とそいつらは私の傍にいてくれるわ。退屈してる時とか、ちょっとさびしい時とかね。」

ア？「そう・・・」

霊「だから、あなたが心配する事もないわよ、魔理沙。」

ア？「それならいいわね。」

霊「わね？」

ア？「あぁ！！はは、そうだそうだ、それならいいぜ！！」

霊「・・・何か今日のあなたっていつもと違う感じがするけど・・・」

ア？「（ま、まずいわね・・・パチュリーは何とかなったけど、霊夢ぐらいなら多分見抜いてくる・・・どうしよう・・・）」

萃「おいーっすぅ、霊夢。」

霊「萃香？どうしたのよ急に。」

萃「別にぃ？暇だから来ただけだよぉ。」

霊「まったく、四六時中酒臭いわね、あんたって。」

萃「それがあたしのトレードマークぅ！！」

霊「・・・もういいわよ。あ、それはそうと魔理沙、あなたって確かアリスを探してたんじゃないの？いつまでもこんな所にいないで探しに行ったら？」

ア？「あ！！そうだった！！こうしちゃいられない！！早いとこ見つけないと！！」

霊「って行ってたら、本人が来たわよ。」

ア？「え？」

魔？「ふぅ、やっと見つけたぜ。大方ここにいると思ったけど予想通りだぜ。」

ア？「ま、魔理沙！！」

霊「魔理沙？魔理沙はあなたでしょう？」

魔？「いやな霊夢、あたし達今ちょっとややこしい事になってるんだぜ。」

霊「・・・もしかして、心が入れ替わってるとか？」

ア？「そうなのよ。」

霊「・・・なるほどね。通りで様子がおかしいと思ったわ。」

魔？「なあアリス、出会って早々なんだけど、家にあった本、どこ

にやったんだ？」

ア？「あれなら、全部パチュリーに返したわよ。」

魔？「えぇ？まだ読んでない本があったのに～。」

ア？「あれだけ借りてて返さないあなたが悪いでしょ？」

魔？「ちぇ、お母さんかよアリスは。」

霊「・・・そろそろ混乱しそうなんだけど。」

魔？「あ！！冷静に考えたら、これってどうやったら戻るんだ？」

ア？「そう言えばそうね・・・ずっとこのままなんて冗談じゃないわ。」

霊「大丈夫よ。多分原因はそこにいるから。紫、いるんでしょ？紫。」

紫「あら、ばれてたのね。」

霊「私を誰だと思ってるのよ。それよりこれの原因、あなたでしょ？」

紫「ちょっと、根拠なしに犯人にするのはひどくないかしら？」

霊「あ・な・た・で・しょ？」

紫「ゴメンナサイ，ワタシデス・・・」

霊「もう、こんなくだらない事して。さっさと戻しなさいよ。」

紫「わかったわよ。（もう少し見たかったけど・・・仕方ないわね。）」

少女？作業中・・・・

紫「どう？もう戻ったと思うけど。」

魔「ああ、戻ってるぜ。」

ア「やっぱり自分の体が一番しっくりくるわね。」

上「・・・」

ア「上海！！」

魔「たく上海の奴、アリスに会うまでずっとただこねてたんだぜ。お陰で疲れちまったぜ・・・」

ア「そうだったの上海？今まで心配かけててごめんね。」

魔「うん、やっぱり上海はアリスといるのが一番だぜ。」

ア「私もそう思うわ。そう言えば図書館に行った時、パチュリーに疑われたから、魔理沙がよく使ってるマスタースパークを撃ってみたのよ。」

魔「えぇ！？撃てたのかアリス？」

ア「その時は魔理沙だったからどうにか出来たわ。でも魔理沙がやった時の方がもっとすごかったわ。」

魔「そりゃそうだぜ！！マスタースパークはあたしの十八番なんだから。」

ア「・・・今日交代してて思ったけど、魔理沙って割といい奴なのね。よくわかったわ。」

魔「あたしも、アリスってすげぇ頭いいんだなって思ったぜ。上海動かそうと思ったらよくわかったぜ。」

ア「そうでもないわよ。上海はある程度自分で動いてくれるし、後は魔力の供給のバランスを適度に調整して、状況に合った対応をしながら判断すれば大丈夫よ。」

魔「そんな事、あたしがあっさり出来る訳ないぜ。」

ア「もう、少しは頭使ったらどうよ？」

魔「何を！！魔法瓶の開発に普段から頭は使ってるぜ！！」

ア「そうじゃなくて、戦ってる時の事を言ってるのよ。」

魔「あたしはシンプルかつパワーがあればいいんだぜ！！」

ア「・・・まあ、その方が魔理沙らしいわ。どっちにしても、今日は魔理沙の事がよくわかった日だわ。」

魔「それはあたしもだぜ。これからもよろしくな、アリス！！」

ア「ええ。」

霊「で、用が済んだならさっさと帰ってくれない？」

魔「わかったわかった。」

ア「それじゃあね霊夢。」

霊「・・・やっと帰っていったわね。私ってごたごたしてるのは嫌なのよ。」

萃「賑やかなのは、いいもんだよ霊夢。」

霊「あんたの場合はそうでしょうけど、私は静かな方がいいのよ。」

紫「そうは言っても、お祭り騒ぎは嫌いじゃない霊夢でしたとさ。」

霊「ちょっと、勝手にナレーションしないでよ紫。」

紫「だってこの話、ナレーションなしじゃない。」

霊「意味不明な事言わないでよ。普段から現世の人間ここに連れて

きたりして散々私に迷惑かけといて、またこんなくだらない事して・・・」

紫「退屈つぶしにはうってつけでしょ？」

霊「だから、私は面倒は嫌いなのよ！」

紫「まあ、今回は実験でもあったのよ。あの二人にもっと分かり合ってもらおうと思ってね。そうしたら異変解決も進んでやってくれそうじゃない？」

霊「・・・そううまく行く訳ないでしょ。」

紫「それもそうね。」

霊「とりあえず、こんなくだらない事はもうしないでよ。」

紫「えー？もう一回ぐらいやっても駄目？今度はもっと面白いわよ。」

霊「誰にやる気よ？」

紫「それはもちろん、あなたと早・・・」

霊「却ぁぁぁぁぁっ下！！」

入れ替えっこ　ＦＩＮ？

（後書き）

後書き

おいいいいいい！！！！やりたかったすぎて意味がわからないＹＯ！！／（＞Д＜）／

この話を理解いただけたみなさんは、まさに幻想郷の住民です（＞＿＜）／

この話は澄田のお気になんですけどぉ、ちょっと短編祭りの時間上編集してる時間がなかった為、ほとんど編集できずこうなってしまいました。

まあ、完全に意味がわからないとは思わないですけど、それでも無理がありすぎますね（？－？）

本当、付き合ってくださった人にはマジ感謝ですｍ（＿＿）ｍ

スペシャルサンクス

霧雨　魔理沙　様

アリス・マーガトロイド　様

上海人形

パチュリー・ノーレッジ　様

チルノ　様

博霊　霊夢　様

八雲　紫　様

では、こんな小説でもない物を読んでいただき、真にありがとうございました

（＃＾｜＾＃）

ｂｙ　澄田　康美

ＰＳ、他の短編はちゃんとナレーションありなので、機会があればどうぞ。

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0152o/

入れ替えっこ

2010年10月21日23時07分発行